

釧路湿原の自然再生に向けて ご意見を募集します

釧路湿原の自然再生に関するお知らせ

日本最大の面積をほこる釧路湿原。この広大な湿原は多くの野生生物を育んでいます。
 しかしここ数年、社会情勢の急激な変化に伴い、釧路湿原は今までにない速度で変貌を遂げつつあります。
 そしてそれは、そこに棲む生きものたちのみならず、私たちの暮らしにも大きな影響を及ぼすおそれがあります。
 彼らや私たちにとってかけがえのない釧路湿原で今何が起きているのか、そして私たちは何をすべきなのか、
 皆様のご意見をお聞かせください。



釧路湿原で今起きていること

釧路湿原は日本最大の湿原で、その面積(約1万9千ヘクタール)は日本の湿原面積の半分以上を占めています。この広大な湿原は、タンチョウやキタサンショウウオをはじめとする多種多様な野生生物を育む、広大なゆりかごでもあります。こうした湿原の価値が認識され、地元の方々の尽力が実って、釧路湿原は、1980年、日本で最初のラムサール条約登録湿地に、また1987年には、日本で最も新しい国立公園に指定されました。このように釧路湿原は世界的にも貴重な資産であると同時に、豊かな地味づくりを進めていく上で、他の地域には存在しない、かけがえのない資産でもあります。

しかし、釧路湿原を取り巻く社会情勢が急速に変化する中で、湿原そのものやその流域において、農地や宅地等の開発により戦後50年で湿原が約2割消失しました。また、こうした周辺の開発に加えて河川の直線化や森林伐採などに伴う、土砂や栄養塩類の流入等により、湿原の周縁部を中心に生物相が変化するなど、湿原は層的にも質的にも自然の移り変わりを遙かに超える速度で変化しています。

このまま対策を実施しないとさらに変化が進行し、結果として、野生生物の生態環境や国立公園としての景観へ悪影響を及ぼすとともに、湿原の有する保水や浄化機能の低下など私たちの生活にも悪影響を及ぼすおそれがあります。



▲区域の開発地帯(写真提供:国土交通省釧路地方建設部)



▲釧路湿原におけるハシラノ科の分布変遷(国土交通省釧路地方建設部提供)